

研究課題：長期寛解後に再発した特発性ネフローゼ症候群患児の特徴と再発後の経過

1. 研究の目的

小児の特発性ネフローゼ症候群は、発症早期に再発することが多いです。経過とともに再発の頻度は低下傾向になりますが、治療終了後や長期の寛解後に再発することも稀ではありません。

そのため、ネフローゼ症候群の治療や管理方法のために、長期寛解後に再発したネフローゼ症候群の症例の特徴と再発後の経過を検討します。

2. 研究の方法

診療録を用いて、後方視的に検討します。

3. 研究期間

2004年1月から2019年1月までに3年以上寛解後に再発した症例を対象とします。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録のみ用いて行います。人体から採取された検体は使用しません。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

学会発表または誌上報告を行います。

6. 研究組織

埼玉県立小児医療センター 腎臓科 科長兼副部長 藤永 周一郎

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター医事担当（代表 048-601-2200）